

第2回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会 会議録

○ 日 時

令和元年12月24日（火）午後1時～3時

○ 会 場

諏訪市役所 3階 302会議室

○ 出席者

<諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員>

平尾勇委員長、林直樹委員、今井晴彦委員、五味嗣夫委員、浅井学委員、五味武嗣委員、北原弘子委員、小針知栄美委員

<オブザーバー>

長野県産業労働部、長野県諏訪地域振興局、諏訪圏工業メッセ実行委員会、(株)リビルディングセンタージャパン

<運営支援>

信州地域デザインセンター中平氏

<事務局>

渡辺副市長、木島企画部長、寺島企画政策課長、中澤企画政策係長、茅野企画政策係主任
<八千代エンジニアリング(株)>

奥平氏、主原氏、小川氏

○ 会議概要

1 開会

(木島企画部長)

- ・第2回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会を開催する。
- ・報道から傍聴の希望があるが許可しても良いか。
※委員の了承を頂き、報道入室。

2 副市長挨拶

(渡辺副市長)

- ・本日は委員会に出席いただきありがとうございます。
- ・前回の委員会は10月9日に開催された。その後県内では台風による被害があった。諏訪市においても上川が決壊する可能性もあったが、大きな被害はなかった。安全安心、魅力ある地域づくりをしていく必要があると改めて実感している。
- ・本日は、それぞれの立場から幅広い忌憚のない意見を頂ければと思っている。

3 事務局から経過報告

(木島企画部長)

- ・議事に先立ち、事務局から経緯報告をさせていただく。

(中澤企画政策係長)

- ・第1回専門委員会では、委員会開催に至るまでの経緯をお知らせした。
- ・示した工程表では令和元年11月に意向調査を実施し、令和2年2月に第2回専門委員会を開催するというになっていた。
- ・しかしながら、専門委員会の目的や議論のゴールが見えにくい、専門委員会の意見を反映されないまま民間事業者への意向調査に入ってしまう可能性があるとの意見があった。
- ・そこで調査をする前に、その点を明確にして改めて確認したうえで、調査を実施する必要があると判断し、前倒しとなるが本日第2回委員会を開催することとなった。

(寺島企画政策課長)

- ・諏訪湖イベントひろばについては地域内外から関心を寄せていただいている。
- ・本件については、行政だけで実現するものではなく、地域内外の力や様々な知見を組み合わせ大きな力を発揮し実現するものである。
- ・今後、当事者となりえる可能性のある人材や企業を発掘して、専門委員会にも情報を共有していく必要がある。
- ・今回、(株)リビルディングセンタージャパンがオブザーバーとして参加している。諏訪を拠点として様々な活動をしており、諏訪地域の若い元気のある人々とのネットワークを築きつつ、首都圏と諏訪地域を繋ぐハブとしての存在にもなっている。
- ・後程、短時間だが提案もいただくこととなっている。必要に応じて、今後もオブザーバーとして参加いただくこともあるのでご了承いただきたい。

4 報告

(平尾委員長)

- ・報告事項に先立ち、定足数の確認について事務局よりお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

- ・委員会の委員数8名のうち、本日出席の委員は7名であり、過半数の出席があることから定足数に達していることを報告する。(※定数確認時点、五味嗣夫委員不在。途中入室。)

(1) 諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会の協議事項について

(平尾委員長)

- ・「(1) 諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会の協議事項について」、事務局より説明をお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

※資料1に基づき、第2回専門委員会の協議事項、今後予定している専門委員会での協議予定内容について説明。

※途中、八千代エンジニアリング(株)からサウンディング調査について説明

(平尾委員長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(質問・意見なし)

(2) 米国シリコンバレー視察等近況の報告

(平尾委員長)

・「(2) 米国シリコンバレー視察等近況の報告」、事務局より説明をお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

※10月28日から11月3日の期間実施したシリコンバレー視察について報告

(平尾委員長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(A委員)

・気軽にミーティングしやすい環境が多いようだが、どんな分野の話をしているのか。

(茅野企画政策係主任)

・スタンフォード大学では医師、技術者、法律家といった様々な分野の方が集まって医療機器開発の話をしていた。Googleでも、全く違うプロジェクトに携わる人同士が情報交換をしていた。

(A委員)

・例えば東京では情報があるから、出張も含め人が集まる状況がある。シリコンバレーは住んでいる人が多いのか？

(茅野企画政策係主任)

・多くの社員はシリコンバレーに住んでいるが、日本企業等も情報を得るために出張や駐在として進出している。

(B委員)

・渋谷ではビットバレーとってIT関係者が集まり昼でも夜でもいつでも好きな時に仕事できる状況にある。話を聞くとシリコンバレーは渋谷と違い夜は人通りが少ないようだがどうだったのか。

(茅野企画政策係主任)

・シリコンバレー中心部については、飲食店等大体10時には閉店してしまう。夜に関しては閑静な住宅街。
・ただし、スタンフォード大学では学内のバーガーショップの閉店時間が朝の5時であったりと、自分の時間で研究をしたり働いたりできる環境にある。

(3) 諏訪湖イベントひろば活用可能性調査経過報告

(平尾委員長)

・「(3) 諏訪湖イベントひろば活用可能性調査経過報告」、八千代エンジニアリング(株)より説明をお願いしたい。

(八千代エンジニアリング(株))

※現在の業務状況について報告

(平尾委員長)

・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(C委員)

- ・メッセ調査は35社ということだが、全社に行わないのか。

(八千代エンジニアリング(株))

- ・出展全社に対する調査は、毎年実行委員会でアンケートを実施している。
- ・今回は開催期間中の対面調査ということなので35社への調査となっている。
- ・統計としてではなく、調査の補足として実施している。

(B委員)

- ・出展料が高い安いといった事について意見は出なかったのか。

(八千代エンジニアリング(株))

- ・高いという意見もあれば、東京と比較すると安いという意見もあった。

5 協議事項

(1) 諏訪湖イベントひろば活用イメージ・機能案について

(平尾委員長)

- ・「(1) 諏訪湖イベントひろば活用イメージ・機能案について」、事務局より説明をお願いしたい。

(茅野企画政策係主任)

※資料2に基づき、現在の活用状況、関連計画、活用イメージ、機能案について説明

(八千代エンジニアリング(株))

※八千代エンジニアリング(株)から、ここで協議する内容がどのように調査に反映されるのかを説明

(平尾委員長)

- ・ただいまの説明を踏まえ、意見交換をさせていただきたい。

(D委員)

- ・諏訪市として何を目指していくのか。諏訪市が地域全体でどんな役割を持つのかははっきりした方がいいのではないかと。また、他の5市町村は議論に関係がないのか。

(寺島企画政策課長)

- ・今回については、幅広に先入観を持たず、皆さんがどんな市にしていきたいのかという観点で意見を頂きたい。6市町村という意味でも、エリア全体を考えていく必要はある。
- ・いずれ諏訪市として尖ったものを出していきたいと考えてはいる。

(A委員)

- ・諏訪市が尖った存在になりえる機能を議論していきたい。行政が考えたからということではなく、尖ったものを出していきたい。

(B委員)

- ・都市計画という立場とすると、防災は重要な観点。諏訪市の場合、仮設住宅を作る場所がない。そうするとあの場所を全て建物で埋めるのではなく、ある程度オープンスペースが欲しい。
- ・現在、展示場があることが特色になっている。それを大事にできればよいと思う。
- ・ものづくりの拠点として考えると、諏訪ではどれだけ新規創業があるのか。創業がないと

ころにインキュベーションオフィスを持ってくるのは難しい。ただ単に製造業ということではなく、隣が赤十字病院もあることから連携して、健康やヘルスツーリズム、スポーツの拠点として活用すると特色は出てくると思う。

(E委員)

- ・ここに来なくては出来ないことにこだわった方が良いと思うし、建屋を残すことに執着しないほうが良い。
- ・隣に赤十字病院があることから医療や健康についての観点は重要だと思う。
- ・すわっチャオが出来たことで、屋内で子どもを遊ばせるスペースが出来たが、小学生以上は基本的に遊ぶことができない。ただ、高校生は平日夕方にあそこで勉強をしている。今まで行く場所のなかった高校生が集う場所が出来た。また、会議室もイベントができるスペースとして十分な広さがある。
- ・茅野市民館やカノラホールといった場所は近隣にあるので、同じようなものはいない。屋外でのイベントスペースとして考えるのもいいと思う。わざわざ建屋を作ることにこだわらなくていい。スポーツもイベントも出来るし、そこに商業スペースも隣接することも出来ると思う。
- ・何かに絞り込んで、そこでしか出来ないことを持ってくることはいいと思う。

(C委員)

- ・個人的にはものづくりにこだわってほしい。過去、跡地に寄付をした人はものづくりのために寄付をした人がほとんどなのではないか。

(F委員)

- ・観光協会では、「観光地諏訪」というビジョンを挙げている。諏訪をどうしていきたいか考える中で、上諏訪駅を拠点と出来ないかと考えているが、駅周辺に広い土地が無いので、ひろばは活用できる拠点ではある。
- ・駅の観光案内所には、諏訪湖、高島城、霧ヶ峰高原、諏訪大社と様々な目的地をもつ観光客が来る。下社に行くにも上諏訪駅を経由して行く方がかなり多いことから、交流の拠点にはなりえる。
- ・交通のハブにするには一定の広さが必要であることから、ひろばは活用できる。

(G委員)

- ・湖畔に面したエリアは少し高くなっているのでロケーションが良い。
- ・隣に赤十字病院があるし、自然の中に車いすで行けるようなエリアとなればいいと思う。
- ・野外イベントにはとてもいい場所ではあるが、トイレが無いという問題もあるので、建屋にこだわらないとしても、そういう部分は同時に考えてもらいたい。
- ・メッセということであれば、諏訪でやる良さがあるのか知りたい。あの場所でなくても可能なのか。面積を小さくしても良いという意見もあるなら、それも考えなくてはいけない。

(A委員)

- ・メッセをここでやる意義等、オブザーバーの諏訪圏ものづくり推進機構から伺いたい。

(諏訪圏ものづくり推進機構)

- ・元々製糸業からバルブ、時計、オルゴールへという歴史がある。諏訪は長野県のものづくりの縮図となっていると思う。

- ・どんな加工分野でも揃っているのがこの地域。それをメッセで外に発信してきた。

(G委員)

- ・メッセがあると、外から観光客も来るので良いと思うが、あの建屋を使うのはどうなのかという疑問はある。

(D委員)

- ・予防～健康増進等医療に特化した都市というのも良いと思う。
- ・シリコンバレーも建物だけあるから人や企業が集まることはないと思う。何かの拠点があって目的がなくては集まらない。医療や工業の相談が出来るような拠点があれば人が来るのではないか。

(E委員)

- ・諏訪の企業はメッセにも出ているが、東京ビッグサイトで開催される大きな展示会に出ている企業も多い。そんな中で、各企業新しい時代に沿った発信の仕方を求めていると思う。
- ・例としては展示会からウェブを使った発信に切り替わっている。パンフレットも同じだ。
- ・今、諏訪圏工業メッセに求めているものは何か、本音が必要だと思う。
- ・メッセに商談のためのお客さんが来場しているかということと必ずしもそうではない。仕事を取るのには東京の展示会という考えの企業が多い。メッセは地元の情報交換の場所としている。出展することで諏訪地域のものづくりを盛り上げるという使命感で出展している企業も多い。
- ・これを期にメッセも大きく変わるチャンスである。

(A委員)

- ・ものづくりをサポートするやり方も今後変わってくると思う。時代に合ったやり方を考えなくてはいけない。

(B委員)

- ・軸となるものを定めても、幅広く議論していく必要がある。
- ・稼げるための機能も考えていかないと民間活力活用という考えに繋がらない。

(A委員)

- ・多くの人に来てもらうことを考えると、ひろばもまちづくりに関係無くはない。そうしないと付加価値はついてこない。機能を徹底的に追求した計画にしないといけない。
- ・インバウンドにどう対応するか。圏域全体で考えていかななくてはいけない。

(B委員)

- ・四国にアーティストインレジデンスという考えで村おこしをした場所がある。その後、ワークインレジデンスという考え方でIT系企業が多く入ってきて人口が増えている。車も少なく自然も多く子育て環境が抜群に良いという利点がある。IT企業はどこでも仕事が出来るので都会ではなくてもよいということで移動してきている。諏訪にはそういう子育て環境は無いが、そういう魅力を出していければ良いと思う。

(F委員)

- ・間欠泉センターもあることから、ひろばだけでなく周辺も考えていけば可能性が広がると思う。
- ・移住定住は重要だが、現在でも工業中心に出張で諏訪を訪れる方が多い。出張客が仕事で

きる場所が少ない。諏訪湖を見ながら仕事できる。家族連れで来て親が仕事をして子供が遊べるといった考えが実現できれば、工業と観光との融合もできると思う。

(E委員)

- ・諏訪には自然の魅力がある。親が仕事をして、子どもが思いっきり遊べるスペースは良いと思う。広い場所というのは魅力である。それが材料となり移住してきている友人がたくさんいるので、子育てを考えていくのもいいと思う。

(A委員)

- ・新しい時代に合わせた一歩踏み込んだ考えをするとメッセはどんなものになるのか、シリコンバレーのように人が集まるにはどうしたらいいのかを深掘りしていければと思う。
- ・医療を代表とする次の市場への進出に対しどうサポート出来るのかという話が別の機会にあった。医療ではメディカルラウンジという手法があり、ショールームのように具体的な手術室や病院施設、介護施設を企業協賛で作っている。子どもたちが見学する場所でもあり、メーカーが見学する場所でもある。メッセと併設してこんなものがあれば面白いと思う。実際にベルリンにあり、企業や大学が協力して運営している。新しい時代のものづくりや機能を考えるのであれば、跡地に入れていける可能性もある。

6 その他

(1) リビルディングセンタージャパンからの提案

(平尾委員長)

- ・(1) リビルディングセンタージャパンからの提案について、(株)リビルディングセンタージャパンから説明をお願いしたい

(株)リビルディングセンタージャパン)

※跡地の活用について提案

(2) JTB総合研究所によるワークショップに関して

(平尾委員長)

※JTB総合研究所によるワークショップに関して平尾委員長から説明

(3) 事務連絡

※事務局から事務連絡

7 閉会

(木島企画部長)

- ・長時間熱心な議論をいただきありがとうございました。
- ・本日は幅広く意見をいただいた。尖ったものが出てくればそこからよりよいアイデアがまた出てくる。それをまた広域6市町村で活用していければよいと思う。今後も活用のアイデアをいただきたいと思います。

(午後3時)